

# 『おおきな木（通級指導教室）』だより



豊中市立大池小学校 R5（2023）3・3 No.4

## ワーキングメモリーに着目してみましょう

### ——“心の容量”という視点で——

最近よく聞く「ワーキングメモリー」。

このことに着目すると、子どもたちの“困り感”が見えてくるかもしれません。

ワーキングメモリーとは

- ・今することを覚え
- ・それを実行する能力

と言われます。スマホの容量に例えるとわかりやすいでしょうか。

朝、登校すると、まず

下足室で靴を履き替え⇒教室に入り⇒ランドセルの中身を机の中に  
⇒水筒はワークの机の上⇒体操服はかごの中⇒宿題を提出  
⇒音読カードも提出⇒連絡帳を書いて提出⇒水やりをする・・・

などの一連のルーティンがあります。

雨の日や月曜日はさらにイレギュラーのことが増えます。

毎日のことだからもちろんできて当たり前、と言いたいところですが、気になることがあったり、「できた人だけ提出」などの例外があったり、誰かから「それ、違うで」などの“不意打ち”がきたりするととたんにワーキングメモリーの容量を超えて、何かひとつふたつ取りこぼしてしまうことになります。

ワーキングメモリーは個人差があります

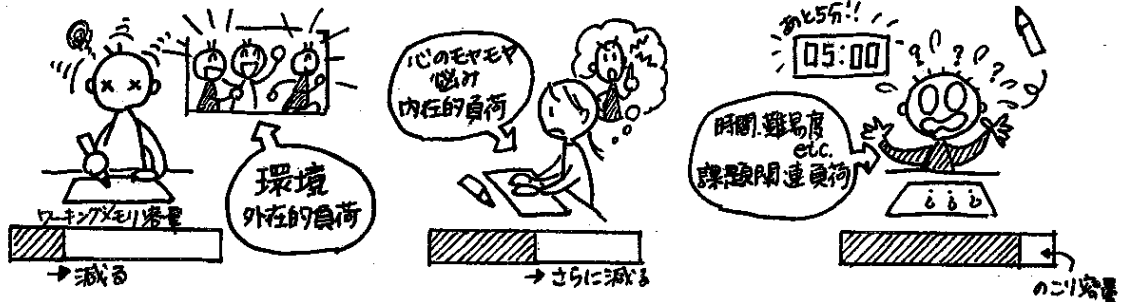
ボトルを思い浮かべてください。

入口の大きさ（＝情報の入りやすさ）も、容量（＝覚えられる量）も人によってちがいます。



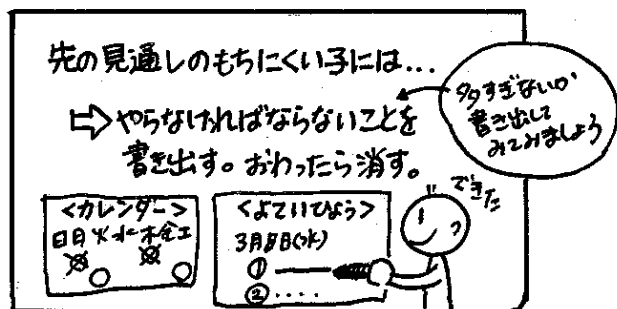
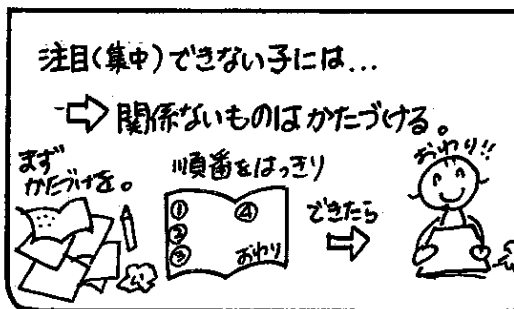
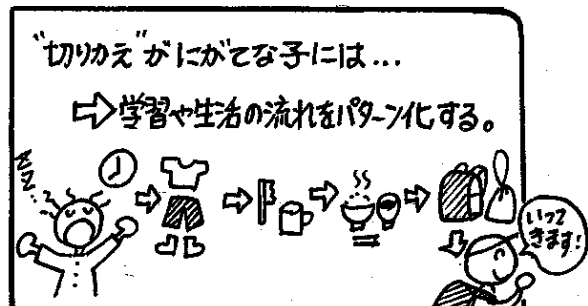
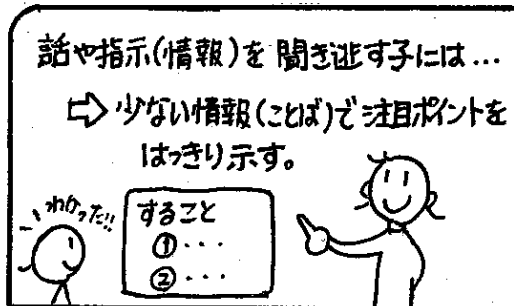
さらに、“負荷”がかかるとワーキングメモリーの容量はどんどん減ってしまいます。

負荷がかかるとこんなことに・・・

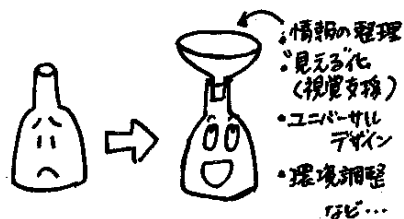


では、どうしたら・・・

ワーキングメモリー容量が少ない子にはこんな配慮ができます(家庭編)



伝え方や環境の配慮、なにより“困っている子どもたちに寄り添いを理解する気持ち”によって、ワーキングメモリー容量が少ない子ども達も笑顔で活躍できると思います。



<この『おおきな木(通級指導教室)』だよりは大池小学校 HP にも掲載しています>

『おおきな木』だよりに関することや、学習・生活のこと、通級「おおきな木」へのご質問、見学希望等がありましたら、まず担任の先生にお話をしてください。

(豊中市立大池小学校 通級指導教室担当:藤木桂子)